

友和

NO.575

発行日 令和7年3月1日

発行 社会福祉法人 友和の里
〒738-0203

広島県廿日市市友田 218-38

TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154

HP: <http://yuuwanosato.com/>

発行者 常務理事 下川真稔



雪の日の朝は職員が雪かきや竹ぼうきをつかって利用者の通り道をつくります。積雪のため、道路や歩道が凍結していたり、水道が出なくなったり、といつもより何だか気忙しい一日のはじまりは、早めに出勤してくる職員が多いです。こんな朝は見慣れた景色の中に発見があります。朝の光できらきらしている樹氷を見ることができたり、すっぽりと雪に覆われた景色のなかで聴こえる自分の息遣いを感じたり…。今月はほっこりしたり、びっくりしたり、みとれたり、いろんな友和の里の冬の様子を紹介します。（地域交流支援員 ヒューガノリコ）

雪の日の思い出

遡ること30年前、送迎バスに携帯電話が無かった頃、雪が降って渋滞して大幅に時間がずれたときなどは、添乗の職員が公衆電話を指して走っては連絡をしていたこともありました。(当時は)通所のみで、雪で渋滞すると友和の里に誰もたどり着いておらず、連絡をするのにも一苦労。公衆電話のある位置から少し離れた場所でバスを降りて公衆電話まで走り、その後電話連絡をしてからノロノロ走るバスに戻ります。「雪の日の思い出・・・」と聞かれ、そんなこともあったなあと、思い出しました。あの頃は何かの時に連絡をとるのも大変でした。

(部長 須藤洋子)



大雪の日のできごと

調理員の藤田縁ふじたゆかりさんの体験。二月二日(日)の早出勤の朝、積雪のためいつもより一時間早く家を出た藤田さん。県道に設置してある友和の里の看板を曲がってすぐ、側道に車が落ちていたのを確認してさらにすすむと倒木があるのに気づきます。4m幅の道路は完全に進路をふさがれていました。藤田さんは電話をして友和の里に応援をお願いしますが、すぐの対応は難しい状況でした。困った藤田さん、出勤前に「なんかあったら電話せーよ」とご主人が言っていたのを思い出し、ご主人に電話をしました。「ノコと斧をもってきて」と。ご主人がきてから、枝を落としますが15センチも幹幅のある高木だったため「これではことにならない」と言われ、息子さんに電話をかけることに。最終的には息子さんがチェーンソーをもってきてくれて倒木は撤去することができたそうです。

この日、藤田さんとはご家族に倒木の撤去作業をまかせて、歩いて友和の里へたどりつき、朝食づくりをはじめます。15分遅れの朝食になりましたが、なんとか提供ができたそうです。大雪にも道路の封鎖にも臨機応変に対応できるスタッフ藤田縁さんの機転とご家族の協力は称賛したいなあと思います。

(地域交流支援員 ヒューガノリコ)



通所部ホール横 積もった雪でかまくらを作ったらすぐ破壊されてしまい、その後つくりなおされた雪像？

貝通し班

貝通し作業をコツコツとこなしています。皆さん無理なく取り組んでおられ、良いペースで進んでいます。今月は、北村学^{きたむらまなぶ}さんのご紹介です。北村さんはいつもお元気で、貝通しや豆管入れのペースが速いです。空き時間には、いつも庭の掃き掃除をしてくださいます。そんな働き者の北村さんとこれからも元気で過ごしていけたらと思います。（生活支援員 冠 茜）

陶芸班

2月は自立課題と並行して干支を入れる袋のシール貼りをしたり、粘土で小物づくりを行っています。小物は顔のある小動物です。かわいらしい作品がたくさん！色付け作業が楽しみです。来年の干支の午の型をどうするか皆さんで選んで決めました。これから干支づくりの準備も始めていきます。（生活支援員 堂面 なみ）

療育班

まだまだ寒さが厳しいですね。寒い日は体が硬くなったり、運動不足になりがちになるので、室内で出来る運動を行なっています。室内ウォーキングを始め、踏み台昇降運動やトランポリンも使っています。更に座ったままでできる運動を職員と利用者と一緒にこなすことでお互いの健康維持にも役立っています。無理なく楽しみながら進めています。（生活支援員 濱田 吉弘）

創作班

今回は大黒^{だいこく}さんと山根^{やまね}さんについて紹介します。お二人の行動をよく観察していると、不思議な関係性があることがわかりました。山根さんは物の位置や向きなどのこだわりがあり、大黒さんの作業机の上の物も気になって触ることがあります。大黒さんはそれを好ましく思わないので嫌がります。山根さんと大黒さんのやり取りが繰り返されるうちにやがて山根さんは行かなくなります。山根さんが来なくなると、今度はさみしいのか大黒さんが「ヤマネサン、コッチコッチー」と呼びはじめます。つかず離れずのお二人の関係。これを半月位の間隔で繰り返されているお二人です。（生活支援員 寄尾 博孝）



貝通し班 北村学さん



療育班



陶芸班



創作班

ワクワク通信

1月18日（土）友和の里でとんどを行いました。日本では古くからお正月には年神様が各家庭に訪れると言われていています。とんどは年神様が空へ帰るのを正月飾りなどを燃やした煙とともに見送る送り火のような意味が込められており、縁起物を燃やすことで五穀豊穰や無病息災、商売繁盛などを願う火祭りの一つとなっています。また、火や煙とともに書初めが高く舞い上がれば字が上達する、灰を家の周囲にまくと魔除けになる…等の言い伝えもあります。

今年度は例年と比べ、一回りほど大きいとんどが完成しました。やはり一回り違うとその姿は圧巻です。点火をしてとんどが燃え上がると、竹が破裂する音や燃え上がる勢いに驚かれる方も多数いらっしゃいました。皆さんしっかりととんどの煙や火にあたっておられたので、今年もきっと良いことがあることと思います。とんどを見た後は、給食でぜんざいを提供し、皆さんおいしそうに頂かれました。（生活支援員 朝川 泰貴）



グループホーム

2月12日にグループホームゆうわ・フレンドホームゆうわ冬まつりを行いました。冬まつりは今年で3回目の開催となりました。廿日市市社会福祉協議会佐伯事務所より借用したレクリエーショングッズを使用し、様々なゲームやカラオケを楽しみました。今回はショートステイ利用者さんも参加して頂き、一段と活気のある祭りとなり、祭り後に「楽しかった」「またやろうや」と利用者さんより、お声かけ頂きました。今後も利用者の皆さんと職員が一体となって楽しめる企画を実施したいと思います。

(生活支援員 岡田 泰祐)



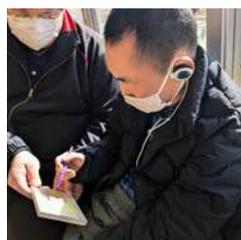
フレンドホーム

2月18日にグループホームゆうわ・フレンドホームゆうわ合同で消防訓練を行いました。入居者の方々は迅速に避難して下さい、避難訓練後には水消火器を使った消火訓練にも参加していただきました。避難訓練に関してですが、回を重ねるごとに入居者の方々も慣れて来られたのか段々早く避難されているように感じました。訓練終了後には消防士の方に避難誘導の様子を見た上での所見を職員数名で伺い、改善点に気付くことが出来ました。今回の訓練を活かし、実際に火災が発生した場合でも皆様がパニックにならず安全かつ迅速に対応できるように今後も定期的に訓練を実施して参ります。

(生活支援員 堂面 大地)



Omakeフォト



研修報告

12/18（水）に廿日市地方合同庁舎にて廿日市労働基準監督署主催の【メンタルヘルス対策講習会】が開かれ参加させていただきました。研修は①「県内における労働災害発生状況等について」②「メンタルヘルス対策の最近の動向と具体的な進め方について」という内容で近年、いろいろな事情で精神疾患を患い、休職や転職に追いこまれる状況が増加していること、それに対して職場としてやっていけないといけないメンタルヘルス対策の方法について学びました。

私自身、職員の健康管理に関する研修に参加したのは初めてだったので、新たな刺激を受けました。これまで長年培ってきた保健師経験も活かし、今後の業務において視野の幅を広げて貢献していきたいと思っています。

（看護師 大下 由紀子）



**まきは
こころの病気を正しく理解すること**

2月15日土曜日に絵馬づくりをしました。通所部の開所日は担当になった職員2名で計画や準備をしています。今回は三宅さんと米中さんで考えたそうです。陶芸班で使用していた桐の板が不要になって眠っていました。職員によってきちんと面取りをしてカットしており、もったいないと思った三宅さん。米中さんに相談して絵馬をつくることになったそうです。蛇年なのでヘビの下絵を米中さんが描いて、穴をあけて紐をとおして40個用意をしました。当日は、好きな色で塗りつぶしをする人、表裏関係なく描く人、自分の願いを素直に書く人もいました。ちなみに三宅さんは絵馬を今まで書いたことはないそうです。絵馬はホールに一定期間飾ってその後、それぞれ家に持って帰ってもらう予定だそうです。来年の冬までお焚き上げもできるそうです。

（聞き取り ヒューガノリコ）

二月開所日 絵馬づくり



二月入所部レクリエーション

2月19日（水）の入所部レクリエーションは鬼のお面作りと玉入れを行いました。各グループに分かれて、午前は鬼のお面と玉入れの玉などを創作、午後は『福を呼ぶ玉入れ大会』を行いました。各グループの利用者さんの自由な創作に、少し支援をさせて頂きとてもよい作品が出来上がりました。午後からの玉入れ大会は上手に玉を投げ入れる利用者さん、玉を投げ入れるのは難しいけど楽しそうに参加される利用者さん、そして、楽しそうな表情、真剣な表情、色んな表情を見られると職員も楽しくなります。とてもやりがいを持った楽しいレクリエーションでした。（生活支援員 木村 信広）

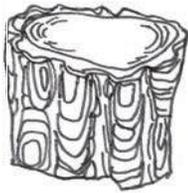


ひろはらやま
広原山たより その12



～事業計画について～ 三寒四温。この冬は近年にはないほどの大雪が何度となく降り、特に通所部はその送迎に難儀しました。入所部やグループホーム・フレンドホームも通院や日中活動などの移動に苦労を重ねました。何と言いましてもここ広原山は坂道が多く、しかも陽が当たりにくい箇所が多いのです。当然、雪道が残りやすくなりますし、時には、立木が雪の重みで斜めに傾き進路を遮ったことさえありました。と言いつつ、時々青空に、銀世界に、広原山ならではの喜びや幸せを感じることもあります。

さて、広原山にある通所部と入所部、友和中心地にあるグループホーム・フレンドホーム、相談支援事業所にとりまして今年度も残すところ一ヶ月になりました。職員はいま、実効性のあるより良い支援体制を用意すべく【令和7年度事業計画案】の詰めの作業に取り組んでいます。これまでの取り組みはどうだったのか、今年度の狙いは利用者さんの笑顔と穏やかな表情を引き出したのか。妙案がある訳ではありません。夢や希望を語りながらも、悩み、苦しみ、議論を重ねながらの計画づくりの真っ最中です。もちろん、予算も念頭に置かなければなりません。これまでの失敗や反省を活かさなければなりません。計画はあくまでも指針ですが、1年に1回きりのビジネスチャンスにもなり得ます。そんな中で大切だなと思わせられたことが3点ありました。その1つが、一人ひとりの利用者さんの特性、背景をしっかりと意識した上での計画



画であってほしいということ。そこから具体的な対応策が見えてくるはず。われわれの仕事は、要望や願いを口にすることがあまり得意でない利用者さんあってこそそのものです。2つ目、当然のことながら計画は職員個人で取り組むことではなく、チームとしての取り組みです。従って、計画作成は職員間でしっかりと話し合いを重ねることが求められます。内容によってはここ友和という地域とのつながりや関係性を念頭に置くことでより具体的な計画が立てられます。3つ目、法人内外の情報を絶えずキャッチしておいたほうが計画に有効だと思うこと。保護者さんや地元の人とのつながりを始めとして、テレビ、ラジオ、新聞、ネットニュース、専門誌、他事業所職員などなど、法人にとっての役に立つ情報を掴む努力を日頃から意識しておくこと。各部署だけ、法人内部だけで弱点を補い合うには限界がありますから。計画づくりをめぐって常務理事としてのさまざまな願いをしたためながら、だけど、事業所の日々は予期できない出来事の連続。利用者さんはお一人おひとりが豊かな個性の持ち主。強いこだわりや特性をお持ちの利用者さんもおられます。その人たちが「友和の里に通って良かった」「生活して良かった」と思っていただけのように職員は日夜、そのための努力を重ねています。来年度の事業計画がその方向づけのエンジンになることを願いながら、皆さまからの遠慮のないご意見やご指摘を心からお待ちしています。

(常務理事 下川 真稔)

3月 ゆうわ さとぎょうじよてい 友和の里行事予定

3/3(月) うんえいきょうぎかい 運営協議会 3 運営協議会
いろろうかい ジャンプ慰労会 (入所) 3 慰労会

3/9(日) ゆうわしみん 友和市民センターまつり

3/10(月) りじかい 理事会 10 理事会

3/14(金) いろろうかい ステップ慰労会 (入所) 14 慰労会

3/15(土) かいしよび 開所日 (通所) 15 開所日

3/18(火) ひょうぎいんかい 評議員会 18 評議員会

3/19(水) レクリエーション (入所) 19 レクリエーション

3/20(木) ねんどまつしよくじかい 年度末食事会 (GHFH) 20 食事会

3/30(日) ぼうまくびびらう 訪問美容 (GHFH) 30 訪問美容

3/2	3	4	5	6	7	8
	<small>3 運営協議会</small> <small>3 慰労会</small>					
9	10	11	12	13	14	15
<small>友和市民センターまつり</small>	<small>10 理事会</small>				<small>14 慰労会</small>	<small>15 開所日</small>
16	17	18	19	20	21	22
		<small>18 評議員会</small>		<small>20 食事会</small>		
			<small>19 レクリエーション</small>			
23/30	24	25	26	27	28	29
<small>30 訪問美容</small>				<small>しゅんぶん 春分の日</small>		

お知らせ ウッドワン美術館で「わたしのアート」が開催されます。会期 3/15 (土) -3/30 (日)
 友和の里からも出展、3名の作品9点が展示されます。入館無料です。

職員突撃インタビュー

入所部スタッフの荒川渡さんにききました。栗谷出身の荒川さん、子供のころからダムで釣りをするのが好きだったそう。前職はものづくりの職場だったが、奥さんが福祉の仕事をしていて対人援助の仕事もいかなと思ひ6年前に入職された。



生活支援員 荒川渡さん

友和の里で働く魅力は？

休みがしっかりとれて、年間129日に有給休暇があります。すごい条件が良い。釣りが趣味なので休みにはミニボートを車でけん引して海へ行きます。周防大島や益田へよく行きます。休みの日が充実していると、しっかり勤務ができます。働き始めて6年目ですが、職場に釣り仲間もできて楽しんでいます。

友和の里は山がありますが

海も好きですが、山も好きです。イノシシをさばいたことはまだありませんが、興味はあります。友和の里には畑があるので椎茸を栽培したり野菜をつくって収穫したり、沿岸部の施設ではできない活動を利用者さんとできているのは魅力です。

ご寄付の紹介



宮島ロライオンズクラブさま

たくさんのご寄付を賜り厚くお礼申し上げます